

# アドベント

東 よしみ

今年は、11月29日の日曜日からアドベントに入ります。皆さんはアドベントと聞いて何を連想しますか。アドベントはクリスマスを待つ季節ですが、皆さんは何を待っていますか。

クリスマスは、イエス・キリストの誕生を祝います。イエスはマリアという女性によってこの世に生まれました。一人の人間マリアが神の子を産むということは、よくよく考えてみますと驚くべきことがらです。人が神の子を産む。何と大きな役割を人間が果たすのでしょうか。

中世ドイツのマイスター・エックハルトという神学者は、人間が神と出会い、自らを新しい存在として産み出すことを指して、「神の子を産む」と表現します。出産は、新約聖書の中でも、人間が新しい存在として生まれることを指して使われています。ヨハネ福音書において、神の子らは、肉の欲、あるいは人間の欲によってではなく神によって生まれた（1章13節）と言われます。また、有名なニコデモとの対話においては、人は新しく生まれなければ神の国を見ることはできない（3章3節）と言われます。

神と出会い、新しい存在とされることを表すのに、出産というイメージは適切なものです。子を産むためには、待つことが必要があります。新しい存在が生まれる時は、痛みを伴います。同じように、「神の子を産む」ためには、待つという期間が必要で、古い存在が死んで新しい存在となる時には痛みを伴います。いつその時がくるのか、人は前もって正確に述べることはできません。

クリスマスを待ち望むアドベントの時期は、神との出会い、神の子の誕生を待ち望む季節です。クリスマスは、冬至の時期です。夜の闇が、ますます冷たく、深くなっていくアドベントの時期こそ、神との出会い、神の子の誕生を待つのにふさわしい時期です。人は、暗闇の中に身をおいてこそ、自らの内奥に自らを超越して存在する神と出会うことができる。暗闇の中でこそ人は輝く光を見ることができ、新しく生まれること、「神の子を産む」ことができる。年末に向けて慌ただしくなるこの時期ですが、心をしずめて、超越者との出会いを待ち望みたいと思います。

(神学部助教)